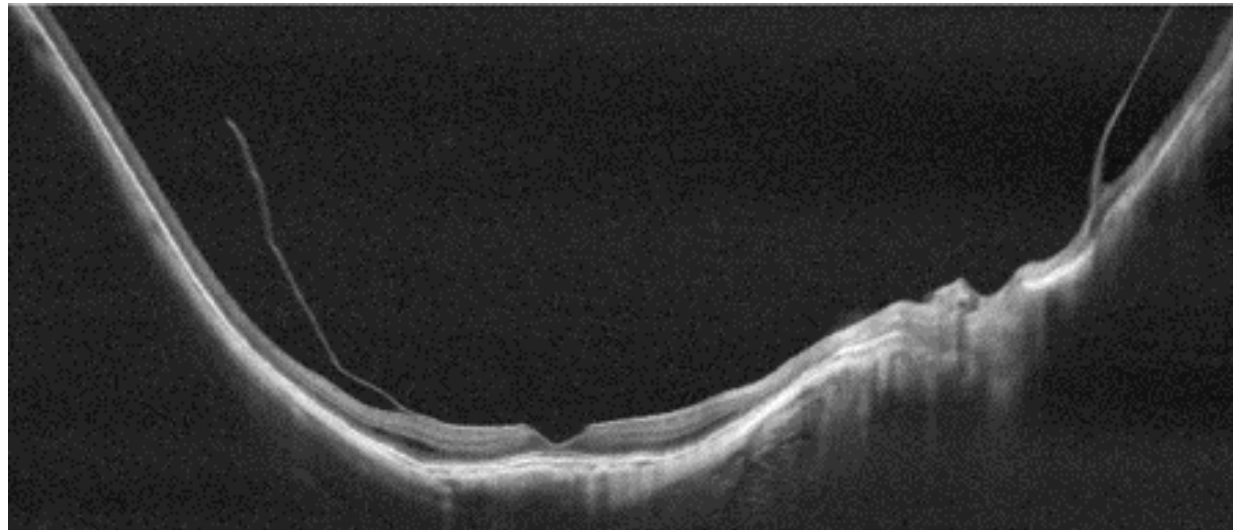


当院では最新の三次元眼底画像解析装置SOLIX（米国Optovue社）導入いたしました。

三次元眼底画像解析装置とは？

一般名称はOCT（日本語名：光干渉断層計）といい、眼球の構造を非接触で瞬時に捉え画像化する装置です。糖尿病網膜症や網膜動静脈閉塞症、加齢黄斑変性などの黄斑疾患、緑内障の診断や経過観察に今や不可欠な機器の1つで、これまでも当院の診療において欠かせない存在となっています。



OCT断層画像例

一回の撮影で中心から周辺まで広範囲の所見が得られます。

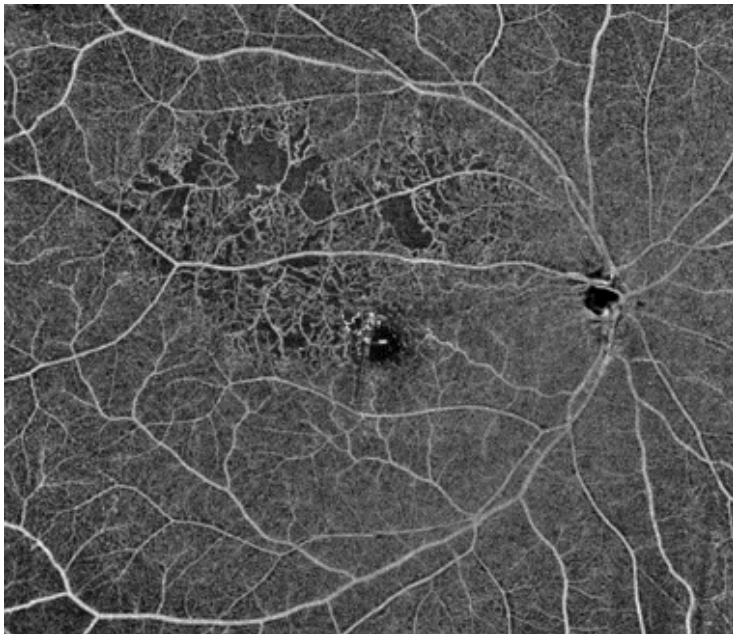
光干渉断層血管撮影(OCTアンギオグラフィ)

近年、OCT機能が拡張され、網膜や脈絡膜といった眼球内の血流状態を、薬剤を使用せずに短時間の撮影で取得できるOCTアンギオグラフィ（光干渉断層血管撮影）を撮影できるようになりました。

OCTアンギオグラフィは糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、緑内障など多様な眼疾患の病態把握に非常に有用な検査です。

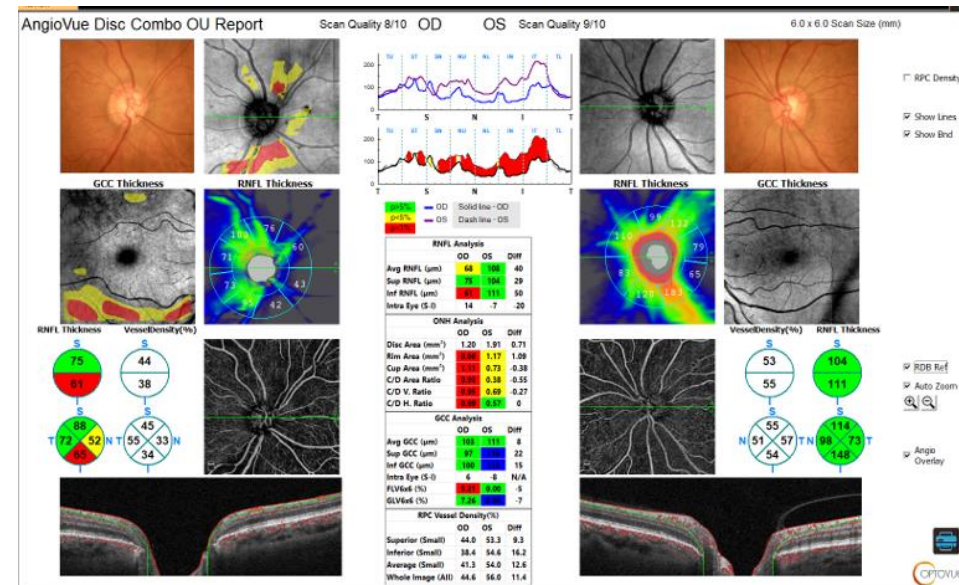
当院で導入した SOLIX は、広画角・高精度で OCT アンギオ画像を取得でき、造影剤を使用することができない方でも撮影が可能です。

従来の蛍光眼底造影撮影は、点滴をしながら造影剤を注射し、連続して眼底カメラで撮影していくため、患者さんへのご負担が大きい検査ですが、その造影検査の回数も軽減できるものと期待でき、安心して撮影に臨めます。



広画角OCTアンギオ例

薬剤を使用せずに、眼底の血流を評価できます



緑内障の解析レポート

従来通りの神経線維層の評価のみならず
視神経周囲の血管構造の評価を行います。